

2013 フットボールカンファレンスについてのレポート

2013.1.18

清水エスパルス 成川雄士

■目的

日本・世界のサッカーのトレンドを知ること、多くの指導者との交流・意見交換を目的とした。

■対象:全カテゴリーライセンス保持者(958名参加)

■期日・場所:1月12日(土)~1月14日(月)イズミティ21

■流れおよび全体像:

1月12日(土)

- ・ガイダンス…田嶋幸三
- ・SAMURAI BLUE 報告…ザッケローニ(ビデオメッセージ)/原 博実
- ・ロンドン五輪 U-23 日本代表報告…関塚 隆
- ・ロンドン五輪 FIFATSG…ジャンポール・ブリガー(FIFA)
- ・FCWC TSG…望月 一仁
- ・トレンド(EURO/UCL)…アンディ・ロクスブルグ(UEFA)

1月13日(日)

- ・対談 なでしこジャパン…佐々木 則夫/吉田 弘/上田 栄治/高倉 麻子/眞藤 邦彦
- ・対談 技術と審判の協調…上川 徹/黛 俊行/森山 佳郎/西村 昭宏/池内 豊
- ・メディカルとの協調…福林 徹
- ・育成年代報告…吉武 博文/吉田 靖
- ・育成 スペイン…ヒネス・メレンデス・ソトス
- ・育成 ドイツ…フランク・ヴォルムート
- ・分科会 育成…池内 豊

1月14日(月)

- ・指導者の役割…眞藤 邦彦
- ・コンフェデ、ワールドカップに向けて…原 博実
- ・バーチャルコーチフォーラム…アンディ・ロクスブルグ(UEFA)/手倉森 誠/森保 一
- ・総括…田嶋幸三

■内容の詳細:

SAMURAI BLUE 報告

▶こだわり・コンセプト

- ① FW のボールの受け方・ポジショニング
 - I. ボール・ゴールを見れる体の向き
 - II. DF、DF ラインを困らせるポジショニング→(最終ラインを下げさせ、バイタルを空ける)
- ② サイドを起点とする
 - ・ボールを受ける体の向き
 - ・サポートのタイミング、関わり

ロンドン五輪 U-23 日本代表報告

▶チームコンセプト、テーマ

一体感・攻守の距離感・攻守の切り替え

▶成果

コンパクトな陣形を保ち、素早い攻守の切り替えができた。

▶課題

厳しい環境でのゲーム経験不足

ロンドン五輪 FIFATSG

優勝国メキシコの特徴:①団結力②攻守の切り替え③サイドを使った攻撃④ボールを失ったらすぐにプレッシャー

準優勝国ブラジルの特徴:強固な守備、圧倒的な高い個人←今大会は過信につながってしまった

▶成功のキーファクター

- I. オフ ザ ボールの質
- II. ボールを奪い、素早く前に運ぶ
- III. 相手コートでボールを奪い返す
- IV. ペナルティーエリア内でファールをしない
- V. 有効なプレーの選択
- VI. 先制点の重要性→先制点を奪ったチームの勝率 8 割以上

▶特徴的なプレー

- ・Give&Go しっかりと味方に預け、すぐにもう一度プレーをする
- ・攻撃のスピードの変化(特にメキシコ・ブラジルがトップクラス)

FCWC TSG

日本と南米・ヨーロッパの方向性は同じ。しかしサッカーのレベルの差は大きい

▶攻撃

- ・テクニック
- ・1st タッチの質
- ・キックの種類

▶守備

- ・全員守備
- ・ハードワーク
- ・自分たちの前でプレーさせる

▶森保監督コメント

止めて、蹴る、オフ ザ ボールの質が高い。また、状況把握(相手の動きをみている)能力が高かった。

トレンド(EURO/UCL)

▶Key となった要素

- ① 人間関係
- ② 困難な状況になった時の対応
- ③ チームスピリット
- ④ 個人の調和
- ⑤ 秩序と才能

▶優勝・勝つチームの要素…Topからのリーダーシップ

※人材こそすべて

- ① 会長
- ② 監督
- ③ スタッフ
- ④ Player
- ⑤ チーム
- ⑥ メンタル
- ⑦ フィロソフィー

▶トレンド

I. スタイル

- ・ポジティブなプレー
- ・ポジティブなポゼッション ※平均パス 500 本以上 成功するチームは 566 本以上
スペイン 929 本(最多)
- ・個々のキープ力
- ・囲い込んでカウンター
- ・ダイレクトプレー
- ・走行距離が多いチームは敗退

II. シェイプ=形

①選手の特徴

スクリーンプレーヤー…後方からビルドアップ配球をし、より創造的に攻撃をサポート

例)ピルロ、シャビアロンソ

ウインガー…両足を使えるもしくは利き足と反対のサイドに配置

外から中に切り込む・SB とのコンビネーション

例)ロッベン、シルバ、トーマス・ミュラー

②シェイプの形成

- 1)Player がシェイプを規定
- 2)コーチのフィロソフィー

III. スピード

- ・監督を解雇するスピード
- ・Player お金が稼ぐスピード(若くして、突如)→人生が変わってしまう
- ・メディアが危機を生み出す
- ・切り替え
- ・ボールスピード

IV. スコアリング

- ・ヘディングゴールが全体の 29%
- ・カウンターをカウンターする。→カウンターに対する守備も向上

対談 なでしこジャパン

▶チームコンセプト

- ・攻守にアクション、賢い駆け引き(なでしこジャパン)
- ・個性を磨く、可能性を開く(ヤングなでしこ)

課題

- ・まだまだ自分で判断してプレーすることが少ない

} ヤングなでしこ

- ・ゴール前まで行かないとチャンスにならない(ミドルシュートが少ない) の方が上
- ・実践に伴うスキルの質の向上(スピードに乗りながら、チャージを受けながら)
- ・指示待ち。表現が乏しい。想いを出して欲しい(U-15 年代)

対談 技術と審判の協調

- ・腕の使い方が向上
- ・海外と日本。日本でも全国大会・地方大会ではギャップがあることがある
- ・海外に出てプレッシャー、勝利への執着心を初めて経験したのではなく ⇒日本で当たり前

メディカルとの協調

▶ジュニア選手のスポーツ障害

- 1.足首の捻挫(サッカーで最も多い)
 - 2.前十字靭帯損傷
- ・女子は男子の 4 倍多い(特に思春期を過ぎてから)

▶予防プログラム

- ・The11+を参考→実際に減少

育成年代報告

▶U-16・19

○成果

- ・スキルは通用した。
- ・SB の攻撃参加
- ・日本人は目標を持たせればそこを目指す

○課題

- ・国を背負う気持ち
- ・日本社会は無菌状態に近いので、アウェーにおいて順応能力が低い
- ・予測・大局観能力が低い
- ・動きの常識の落とし込みが必要 (例)野球でいうならファーストゴロの処理はどう動くか
- ・相手を観る→攻める「場所」と「時」は相手が決める。
- ・プレッシャーの中でのスキルの発揮
- ・半数が J クラブでメンバー外の選手→公式戦経験の乏しさ(U-19)

育成 スペイン

▶成功の 5 ポイント

I. タレントの育成

- ① クラブ…選手の発掘・育成・トレーニング
- ② 代表…選手を通じてクラブを強化
規律と行動規範の徹底
才能ある選手に試練を与える→強い相手と戦う

II. スタイルの確立

- ① 秩序
- ② タレント
- ③ 選手がプレースタイルを決める
- ④ いいポジションと取ることが一番大切

III.選手のセレクト

- ・戦術理解
- ・テクニック
- ・人間性→3C(クオリティー、キャラクター、闘争心)
- ・スピード→フィジカル、メンタル
- ・心理バランス

IV.勝者のメンタリティー

V.その他

- ・長い時間をかけて選手を育成。将来活躍できる選手を
- ・短期間での成果を追及が全てではなく哲学とスタイルを貫くこと
- ・A 代表と育成年代の協力体制を作る
- ・小さな頃から勝者のメンタリティーを

育成 ドイツ

I.構造

①地域(10歳～14歳)

- ・360 拠点
- ・4,000 チーム
- ・14,000 スカウト
- ・1,000 コーチ

②クラブ

- ・49 アカデミー(ブンデスリーガ 1、2 部下部組織)
- ・800 タレント
- ・21 の地域選抜チームによるトーナメント開催(U-15～18)

③将来像

- ・地域にコーチ・スカウトを 25%増員
- ・ブンデスリーガ 3 部チームのアカデミー設置

II.スカウト

①ゲームで要求されること(見抜くポイント)

- ・技術、戦術、クリエイティビティー(自分なりの答え、予知能力を持っている選手)
- ・フィジカルフィットネス
- ・心理面→精神力が強い選手がトップまで昇りつめる。(自信・学ぶ意欲・問題対処能力・リバウンドメンタリティー)

②スカウティングのガイドライン

- ・今、最高の選手を探すばかりではなく、将来最高の選手を探す
- ・実年齢と生物学的年齢には差があることを認識
- ・なんらかの突出した能力を持つ選手を探す(スペシャリスト)
- ・様々なタイプのクオリティーを探す
- ・全体論的視点を持つ

III.育成トレーニング

～コーチは選手が成功するチームでプレーする準備をさせる～

①トレーニング

- ・ゲームの基本的な状況～ゴールを奪い・守る～技術を身に付けさせる
 - 攻撃→組み立て、チャンスを生み出す
 - 切り替え
 - 守備→組み立て、チャンスメイクを妨害
- ・トレーニングはそれ自体が目的ではない。目的を達成するための手段

②コーチの役割～サッカーは判断のスポーツ!判断をするのは各自～

- ・価値観を教える
- ・ポジティブで建設的な批評 } 一方的に情報を与えない
- ・発問する } 適した・興味がある時期に与える
- ・その場で具体的な修正
- ・オープンマインドになりコミュニケーションをとる

分科会 育成

I.世界のサッカーのトレンド

- ・よりテクニカルに、スピーディーに、タフに、コレクティブに
- ・11人がフットボラー
- ・攻守の一体化

II.世界と戦うために Japan's Way

日本人の特徴…テクニック、判断力、持久力

- ・特徴を活かし Japan's Way

「テクニック(判断力を含む)」と「関わり(運動量)」で数的優位を作る

→選択肢があるなかでプレーする

III.2012 国内大会 TSG

U-12 年代…8人制の実施により関わりの質向上

U-15 年代…局面の関わりの質向上が少なかった。ポジションに変化が少なく多彩な攻撃ができるチームが少なかった

U-16 年代…意図的に組み立て攻撃を志向するチームが増えた

IV.育成年代の積み上げ

- ・指導者の情報のインプット/アウトプット…全体像を理解した上で目の前の子供に応じた刺激を与える
- ・テクニック…個人で局面を打開できる Player の育成 } ゲームで更に効率・効果的に
- 1対1の守備が強い Player の育成 } 個の強みを選択肢がある中で活かせるようにする

指導者の役割

▶育成の指導者として

- ・ミスを恐れずトライさせる指導者
- ・サッカーの本質を高められる。
- ・本気で目の前の子供たちを伸ばしたいと思う気持ち→子供の良さを見抜く

バーチャルコーチフォーラム

※UEFA エリートクラブ監督フォーラム(欧州主要クラブの監督がシーズン終了後に集まり意見交換を行う)で出たケースを提示され意見交換した。

- ①EURO、UCL に出場した監督はポジティブな姿勢を示した。(ベンゲル)
- ②ディテールが差を生み出す(モウリーニョ)
- ③Player に自分が重要な存在と感じさせる必要がある(グロップ)
- ④Player に予測を指導しなくてはならない→あなたならどうする?
- ⑤よいチームでないと勝てない。サブメンバーは非常に重要である。
メンバー交代時の理由は??フォーラムでは 20 の理由が出ました。
- ⑥パワーは十分に持っているが、試合の結果をコントロールすることは出来ない
(アンチェロッチェ)→勝つチャンスを高めるために試合当日にできることは?

■トピックス:

スキル…今回のカンファレンスの中で、日本の特徴・成果でスキルの高さが挙がっていたが、課題においてもスキルの向上が挙がっていた、一見矛盾しているが、世界で戦う中ではもっと精度を上げること、試合の状況に応じたスキル選択・発揮が必要だと感じた。

スタイル…世界のトレンドは「ポゼッション」となっているが、カンファレンスの話を聞いている中で、昨年ズデンコ氏の講習会に参加した時の話と繋がった。
日本では、ポゼッションはボールを奪われないためにボールを動かすという認識が強いが、ズデンコ氏の講習では前(縦に)にボールを入れるための手段として、相手を動かすのがポゼッションと言っており、ゴールを常に意識している。
EURO/UCL 大会トレンドの「ポジティブなポゼッション」にも共通した。
そして、ポゼッションの代名詞になりつつあるスペイン代表においてもボールを奪ったらず、カウンターを狙っており、ダメならポゼッションに切り替え前に進むタイミングを窺い、ゴールを奪う道を探るというように常にゴールを奪うことを意識しながら戦い、ゴールを奪うための手段として採用している。

心理面…今回のカンファレンスの中でよい選手の条件、ポイントとして「心理面」が挙げられることが多かった。ドイツやスペインでも実際に才能がある選手に試練を与え、心理面に対しての育成・アプローチを行っている。

プレゼンテーション…今回多くの方々の発表を聞く中で海外の方の発表が話し方・立ち振る舞い。パワーポイントや映像の使い方がシンプルに要点をまとめ、わかりやすく聞く者の興味を誘っていた。